



クロマツが自生する平田緑地

## 「外かん」に対する問い合わせの多い事項についてお答えします。

**Q** 「外かん」により、市川市の木であるクロマツの街並みが失われるのではないですか？

**A** クロマツは移植・植樹により復元に努力します。

「外かん」には250本程度のクロマツがかけられますが、それぞれの分布状況をみながら、移植できるものは近隣地や「外かん」の緑地帯などに移植します。また、「外かん」の緑地帯をできるだけ利用し、新たに植樹を行うことによってクロマツの街並みの復元に努力します。

**Q** 「外かん」によって、自然林などの緑が失われるのではないですか？

**A** 「外かん」の植樹帯を利用して緑地の保全に努めます。

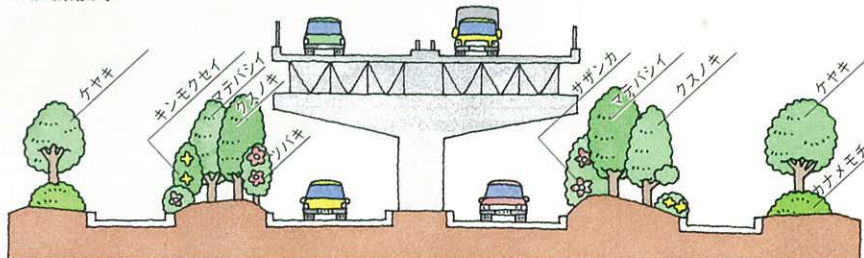
「外かん」には小塚山公園や平田緑地の自然林の一部、面積にして約1.5haがかかりますこととなりますが、事業実施の際には、近隣地域での移植・植樹用地の確保に努めます。なお、「外かん」の植樹帯によって生み出される緑地は約11.5haにのぼり、「外かん」の建設は将来的には緑地を回復させることとなります。



埼玉県内の供用済区間(浦和市辻地区)

### ■浦和市辻地区

#### ●植栽形式





# 「外かん」は生活道路の安心を取り戻します。

**Q** 市川市にとって「外かん」はなぜ必要なのですか？

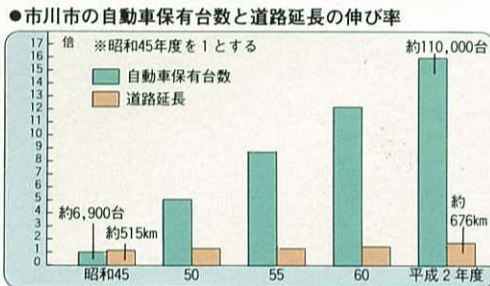
**A** 道路整備の遅れによる市民生活の悪化を改善するために必要です。

市川市は都市化が急速に進み、最近20年間に人口は約1.7倍、自動車保有台数は約16倍となっています。その一方、道路整備が非常に遅れているため、著しい道路交通混雑が生じています。このため、通過交通が生活道路にまで入り込み、交通安全や生活環境の悪化などの問題が生じ、路線バスが円滑に運行できないなど、市民生活に多大な影響を与えています。

「外かん」は市川市の南北の交通軸となり、これらの交通問題を解決していく上で不可欠です。また、流域下水道などの都市施設の収容や防災空間の形成など、まちづくりにとっても必要な道路です。



主要地方道市川松戸線 市川2丁目付近



自動車保有台数(軽自動車・小型二輪車を除く)および道路整備延長共に各年度末現在。「市川市統計年鑑」より

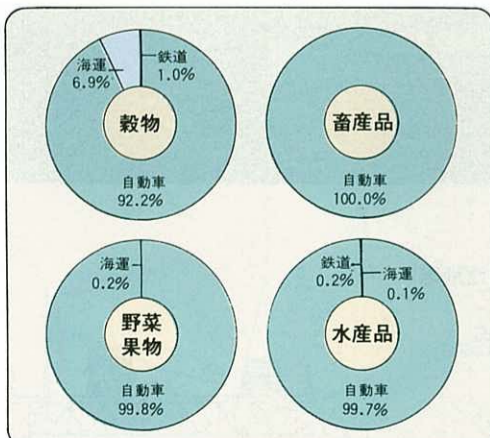
**Q** 自動車を減らせば交通問題は解決するのではないですか？

**A** 自動車は見えないところで市民生活を支えています。

毎日何気なく食べている食事。その食品は産地から市場、商店を経て家庭の食卓に並びます。運輸省の統計では野菜果物、水産品などの食品のほとんどが道路を走る自動車によって運ばれているのです。また鉄道で運ばれたものでも、駅から消費地までは道路を利用しなければなりません。見えないところで自動車が生活を支えているのです。

人の移動に関しても自動車の分担率は約6割に達しており、通勤、買物、レジャーなど市民生活と切り離せないものになっています。このような自動車交通需要にこたえていくためには、現在整備が立ち遅れている道路網をバランスよく整備した上で利用者に自動車の利用の仕方を工夫するよう求めていくことが重要であると考えます。

●物資の輸送機関別輸送量分担率(全国)



平成2年度陸運統計要覧(運輸省)より



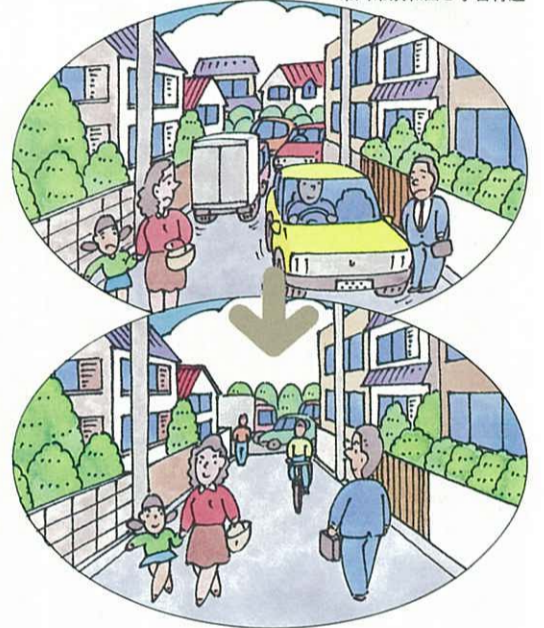
市川市須和田2丁目付近

**Q** 「外かん」よりも歩行者道や自転車道の整備を行うことが優先ではないですか？

**A** 利用目的に応じた道路の整備が必要です。

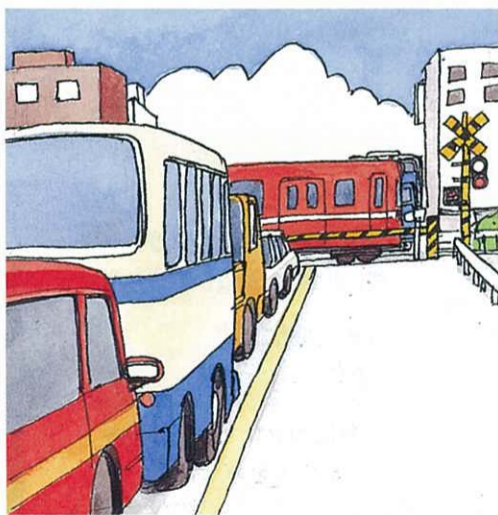
市川市では、幹線道路が不足しているため、渋滞時には自動車が抜け道を求めて、本来ならば歩く機能を優先すべき生活道路にまで入り込んでいます。このような状況では、歩道だけを整備しても大型トラックなどの車の危険から逃れることは困難です。

子供や老人が安心して歩けるようにするためには、利用目的に応じて高速道路、幹線道路、生活道路を整備し、それぞれの道路の機能を強化して望ましい使われ方をするようにしなければなりません。



**Q** 市川市の渋滞の原因は京成の踏切であり、これを先に解決すべきではないですか？

**A** 準備が整ったものから順次、事業を進める必要があります。



京成の立体化も市内の交通改善や、まちづくりの面からも重要な課題といえます。しかし、事業を進める上では、鉄道沿線住民の立ち退き、騒音・振動などの環境問題、市川市の財政負担、鉄道事業者の経営面・列車運行面など様々な条件を慎重に検討する必要があります。

京成の立体化および「外かん」の整備は、市川市にとって両者とも重要な事業であり、準備が整ったものから事業を開始することが合理的であるといえます。

仮に、京成の立体化の施工時期が遅れた場合でも、「外かん」は京成と立体化させる計画で、南北交通における踏切渋滞の解消に大きく貢献するものと考えます。

**Q** 「外かん」は市川市内の交通混雑を助長するのではないですか？

**A** 「外かん」に市川松戸線などの交通量が転換され、既存の幹線道路の混雑は解消されます。

南北方向の幹線道路は、東西方向の幹線道路である国道14号とT字交差しているものが多く、国道14号の一部を利用しなければ南北の移動ができない道路網になっています。これが、国道14号に大きな負担を強いることになり、同路線の混雑の原因にもなっています。

「外かん」は南北方向のスムーズな移動を可能にすることから、現在国道14号を介して南北方向の移動を行っている交通の一部を吸収し、国道14号の混雑を軽減することができます。

また、「外かん」は市川市の中央部を南北に貫く位置にあり、市内のどこからも利用しやすい南北の幹線道路となります。このため、市川松戸線、市川柏線、松戸原木線などを利用している南北交通の一部を「外かん」が受け持つことになり、南北の幹線道路の混雑を軽減することができます。



国道14号 市川駅付近



**Q** 「外かん」によって大気・騒音など沿道環境が悪化するのではないですか？

**A** 十分な環境保全対策により環境基準を厳守します。

「外かん」は地域の環境を保全するために、環境基準を守ることを目標としています。このため、自動車専用部は騒音対策上有利な半地下構造（掘割スリット構造）を採用しました。また、大気の拡散が十分に図られるように幅広い環境保全空間を車道の両側にとっています。詳細については、今後都市計画変更の手続きに際して千葉県知事により環境影響評価が行われることになっています。

音の大きさ(参考例)

80 ホン	地下鉄の車内。 電車の車内。	
70 ホン	電話のベル。 デパートの中。	
60 ホン	普通の会話。 静かな乗用車の車内。	
50 ホン	静かな事務所。 静かな公園。	
40 ホン	市内の深夜。 図書館。	

●騒音に係る環境保全目標  
(2車線を越える車線を有する道路に面する地域)

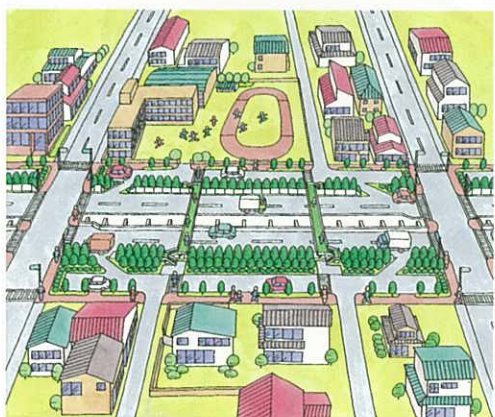
地域 の類型	時間の区分		
	昼間 8時～19時	朝夕 6時～8時 19時～22時	夜間 22時～6時
住居系 (A地域)	60ホン(A)以下	55ホン(A)以下	50ホン(A)以下
商工業系 (B地域)	65ホン(A)以下	65ホン(A)以下	60ホン(A)以下

※ホン(A)は騒音レベルを表し、一般に「ホン」と呼ぶ。

**Q** 「外かん」は市街地の分断をもたらすのではないですか？

**A** 横断施設を適切に配置し、地域の分断を防ぎます。

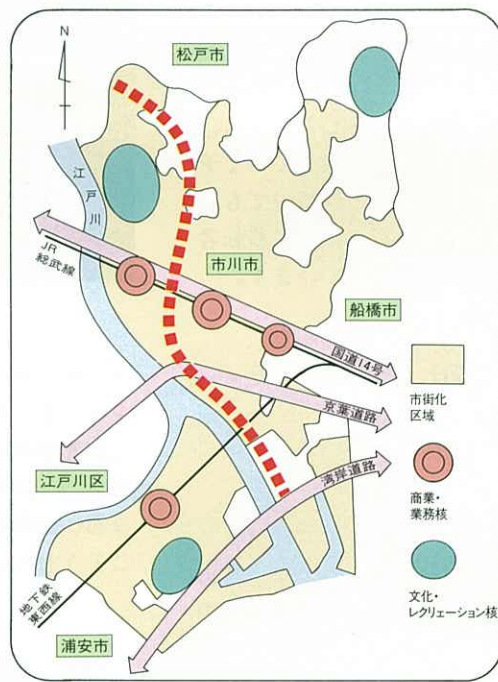
「外かん」が市街地を通過する区間では、できるだけ交差する道路を分断しない計画としています。県道や主要な市道は「外かん」と平面交差させる計画であり、残りの道路についてもすべてサービス道路に接続させることとしています。また、横断歩道橋を適切に配置します。こうした対策により、地域の交通を確保するとともに、市街地の分断を最小限にとどめます。



**Q** 「外かん」はなぜ市川市の中央に位置する都市計画ルートが最善なのですか？

**A** 市川市民の多くが利用しやすいルートになっています。

市川市内の南北交通を効率的に処理する交通軸として「外かん」を整備するためには、市の南部、北部いずれの地域からも利用しやすく、また、国道14号と同様に市川地区、本八幡地区という2つの都心核へアクセスしやすいルートにする必要があります。このため都市計画ルートは、市北部ではできるだけ市街化調整区域を通し、中央部では2つの都心核の間を通し、南部ではできるだけ江戸川に沿ったルートとしています。このルートは、南北の幹線バス路線として、また、整備の遅れている流域下水道の幹線を収容する上でも最適のルートです。



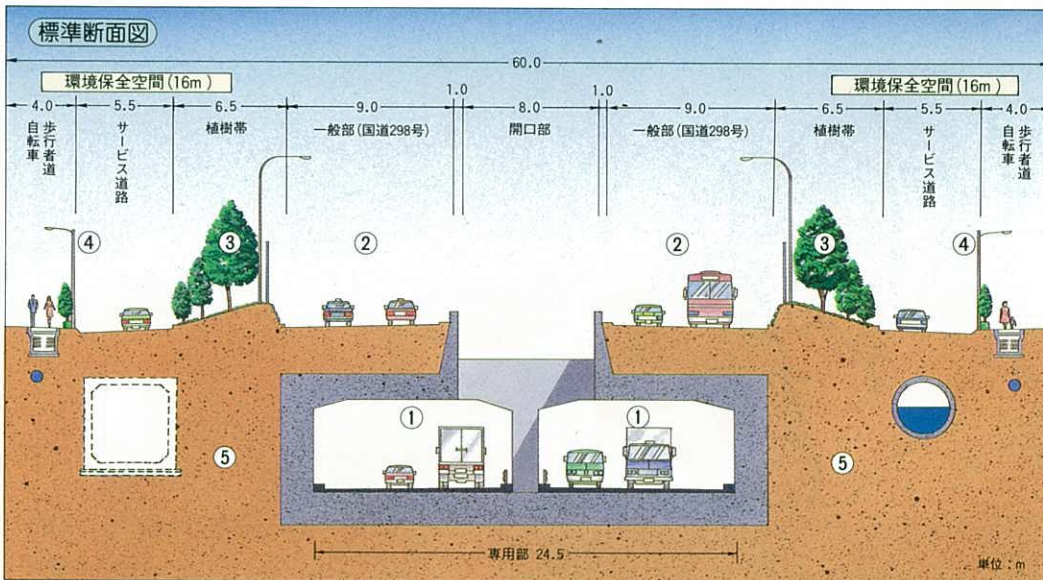
**Q** なぜ幅員60mの掘割スリット構造としているのですか？

**A** 沿道の環境保全に配慮し、親しみとるおいのある空間を創出するためです。

「外かん」は、人口が集中し、きわめて都市化が進んでいる地域を通るため、特に沿道地域の環境対策に万全を期す必要があります。

このため、騒音、振動、大気質などについて環境を保全し、親しみとるおいのある緑豊かな空間を創出するため、片側16mの環境保全空間の中に、遮音壁や幅広い植樹帯を設けることとしています。

また、景観、日照、電波障害など、様々な影響に配慮し、専用部（高速道路）を掘割構造としています。



- ①専用部(高速道路) 広域的な通過交通を地域から吸収するとともに、他の地域への高速交通手段となります。
- ②一般部(一般国道298号) 市内の街路と密接に連絡し、南北方向の交通軸となるとともに、バス路線としても活躍するなど、まちづくりの骨格となります。
- ③植樹帯 十分な緑化を行い、みどり豊かなまちづくりに貢献します。また、この中に遮音壁を設置し、沿道の環境を保全します。
- ④サービス道路、自転車歩行者道 サービス道路は、沿道街地の地先道路となり、また、自転車歩行者道により、快適で安全な通行が確保され、これらは地域に密着したコミュニティ空間となります。
- ⑤地下収容空間 上下水道・ガス・電気・電話など暮らしに欠かすことのできない施設を収容します。

**Q** 「外かん」沿道の無秩序な開発が進むのではないですか？

**A** 基本的には現在の街並みの維持は可能です。

将来の土地利用については、市川市により、住民の意向を踏まえた適切な指導、誘導がなされることとなります。

なお、「外かん」の計画策定にあたっては、市川市における現況の土地利用を基に構造などを検討しており、基本的に現在の街並みの維持は可能です。



「外かん」は市川の環境を守ります。



**Q** 移転を余儀なくされる市民に対してはどのような対策をとるのですか？

**A** 移転される方々のために代替地を確保しています。

建設省ではルート上の多くの方々が、市川市内に代替地を希望されることを予想しています。このため、松戸市区間で二十世紀が丘に代替地を確保したように、市川市区間についても十分な代替地を確保していく予定です。また、移転補償、営業補償などについても適正な補償を行います。十分な対策を行うために移転者対策検討会を設置し、現在、検討を進めています。



建設省が市川市内で取得した代替地の一部(市川市曾谷地区)

**Q** 今後どのようにこの事業は進められるのですか？

**A** 市川市の同意が得られれば、順次計画を進めてまいります。

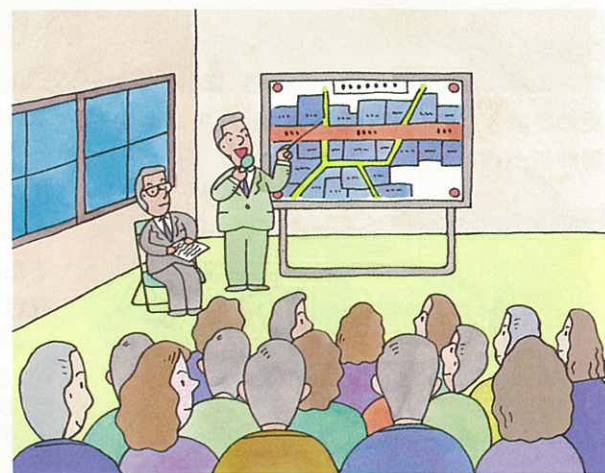
現在、市川市において建設省の提示案に対する検討がなされているところですが、市川市から建設に同意する旨の回答が得られれば、「外かん」に対する様々なご意見を参考にしながら計画案の詳細な検討を行った上で、地元の皆様方に事業計画などの説明を行い、あわせて環境影響評価を実施することになります。さらに、所要の手続きを経て都市計画変更が行われた後に、建設計画を進めてまいります。

**Q** 埼玉県の「外かん」の状況はどうなっていますか？

**A** まもなく供用します。

「外かん」の埼玉県区間は、昭和48年から工事を進めてまいりましたが、東京外環自動車道については戸田

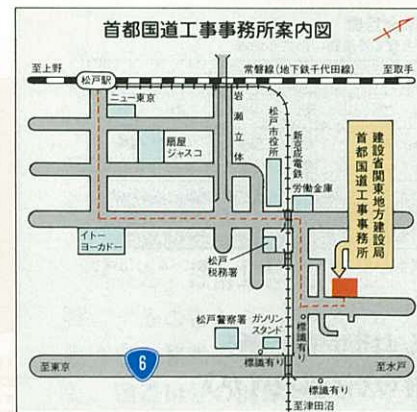
市の美女木ジャンクションから三郷市の三郷ジャンクションまでの21.1kmを11月27日に、一般国道については和光市から三郷市までの21.2kmを4区間に区切って11月24～27日の間で順次供用することになりました。なお、三郷市から松戸市までの整備も引き続き進めることとしています。



どんなご相談でもお気軽にお越しください。

本紙は千葉県内の「外かん」の計画について、住民の皆様幅広く知っていただくために発行するものです。「外かん」の計画、道路の構造、環境対策、用地補償、移転者対策などのことについて逐次お知らせするとともに、当所に寄せられた住民の方々の質問などについてもお答えしていきたいと思っております。皆さんの「外かん」に対する御理解と御協力をいただくうえで、本紙が少しでもお役に立てば幸いです。本紙の内容についてご質問などがございましたら下記にお寄せ下さい。

建設省関東地方建設局  
首都国道工事事務所調査設計第一課



〒271  
千葉県松戸市  
竹ヶ花86  
☎0473-62-4115

